

「臓器提供医療機関における選択肢提示に関わる研究」

研究分担者 江口 晋長崎大学大学院 移植・消化器外科

研究要旨 臓器提供数の増加の為に、いかに臓器提供に関する情報提供・選択肢提示を行うかが重要な鍵と考えられる。選択肢提示における現在の取り組みを調査し、改善点を明らかにすることを目的とし、研究を行った。臓器提供における選択肢提示において、移植医は、施設レベル、地域レベルでの現状・課題をよく知った上で、主治医への負担軽減や、スムーズな情報提供システムの確立など、移植医療の現状に精通している利点を活かして、チームの一員として、臓器提供の選択肢提示を行う際の理想的な対応のあり方の研究に関わることが重要と考える。長崎大学病院の取り組みとして、臓器提供時の主治医の業務負担軽減を目指した業務分担ワーキンググループを立ち上げた。

A. 研究目的

臓器提供数の増加の為に重要と思われる選択肢提示数の増加につながる方策を考える。

B. 研究方法

選択肢提示数増加を目指した施設レベルで実施可能な取り組みを探索する。

C. 研究結果

選択肢提示が進まない一因として主治医の負担が大きいことが挙げられる。当院では、ドナー主治医診療科、移植医の他、関連各科、事務が連携し、主治医負担軽減を目指した業務分担ワーキンググループを立ち上げた。

D. 考察

今後は臓器提供時の業務分担の確立による施設レベルでの臓器提供の選択肢提示の増加が期待される。一方、全国の 5 類型施設数のうち、ガイドラインが規定する体制が整っているのは 862 施設中 426 施設と約半数であり、施設レベルの取り組みだけで、臓器提供数を増加させるには限界があると思われる。将来的には Organ procurement organization の導入や院内コーディネーターの充実による標準化が望ましい。

E. 結論

臓器提供が増加するためには、市民の意識の実状を把握し、移植医、臓器提供関連施設、行政等が情報共有しながら、臓器移植・臓器提供のシステムづくりを施設レベル、地域レベルにて行うことが重要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Eguchi S, Soyama A, Nagai K, Miyazaki Y, Kurihara S, Hidaka M, Ono S, Adachi T, Natsuda K, Hara T, Fujita F, Kanetaka K, Takatsuki M.

The donor advocacy team: a risk management program for living organ, tissue, and cell transplant donors. Surg Today. 2017 Aug; 47(8): 980-985.

2. 学会発表

2017. 9. 8 第 53 回日本移植学会総会  
臓器横断的シンポジウム 1

「臓器移植法 20 年を考える  
社会システムとしての臓器提供の推進  
臓器提供の選択肢提示をいかに  
増やすか？」

-臓器提供増加の為にシステムづくり-  
長崎大学大学院 移植・消化器外科  
曾山明彦、高槻光寿、日高匡章、

足立智彦、大野慎一郎、夏田孔史、  
原貴信、江口晋  
長崎県健康事業団  
竹田昭子

H. 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。